Panasonic

保管用

臨時施設専用ポール

施工説明書

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
■配線工事には法令で定められた資格が必要です。
■取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

⚠警告

禁止

●**実用径間および許容荷重を超える引き込みはしない**

●**電線やケーブル支持線を強く引っ張らない**

●**商品の仕様にないものは取り付けない**
また、植栽や他の構造物の支えにしない
●看板・ハンモック・物干し竿など
ポールに想定外の負荷がかかり、曲がりや転倒の原因となります。

●**活線工事はしない**
電気事故の原因となります。

●**ポールやボックスに穴をあけるなどの追加工や改造はしない**
強度低下による曲がりや転倒のおそれや、追加工部からの腐食による寿命低下の原因となります。

必ず守る

●**施工は、施工説明書通りに正確に行う**
適切な施工がされていないと、寿命の著しい低下や雨水浸入による電気事故の原因となります。

●**「電気設備の技術基準」、「配電規程」および「内線規程」に基づいて施工する**
適切な施工がされていないと、電力の供給が受けられない原因となります。

●**高所作業時は、ヘルメットの着帽など安全性を確保した上で、ポールに強い力が加わらないように作業を行う**
ポールに想定外の負荷がかかり、曲がりや転倒の原因となります。

●**各部の固定は確実に行う**
施工時および使用時に部品落下の原因となります。

●**ポール・ボックスには接地工事を行う**
電気事故の原因となります。

●**風の強い地域や氷雪の多い地域に建柱する場合は、施工説明書3ページ「各風圧荷重について」を参照して、径間距離を決める**
ポールに想定外の負荷がかかり、曲がりや転倒の原因となります。

●**ポール表面に傷や素地が見える剥離のないことを確認し、異常があれば確実に補修する（取扱説明書「補修方法」を参照）**

●**動物などの排泄物が付着することが考えられる場合は地際部に補修塗料・防食テープなどで予防処置する**
腐食が促進されポール倒壊の原因となります。

●**建柱時は、ポール下面の水はけを良くする**
ポール内に雨水がたまり、腐食の原因となります。

⚠注意

禁止

●**当社部品以外での取り付けは行わない**
取り付け強度不足など不具合が発生する原因となります。

●**ボックスの上に乗るなど過剰な負荷をかけない**

●**物を投げ付けない**
変形、傷による寿命の低下や雨水浸入による電気事故の原因となります。

●**ボックスの取り付けや配線作業時、扉にもたれたり、体を支えたりしない**
金具が変形したり、扉が外れて落下し、けがの原因となります。

●**運搬中は振り回さない**
人や物などに当たりけがの原因となります。

●**ポールは不安定な立て掛けをしない**
倒れて、けがの原因となります。

●**結束バンドを持たない**
落下して、けがの原因となります。

●**ボックス固定後、ボックスの向きを変えるなど過剰な負荷をかけない**
金具が変形する原因となります。

必ず守る

●**配線作業中は扉を仮止めする**
手を挟む原因となります。

●**上・下部柱の組立時は、手袋などの防護具を付けポールに枕木を敷く**
手足を挟む原因となります。

●**荷崩れしないように保管する**
荷崩れしてけがの原因となります。

●**手袋などの防護具をして作業する**
ポール端面、切欠穴部などで手指を切る原因となります。

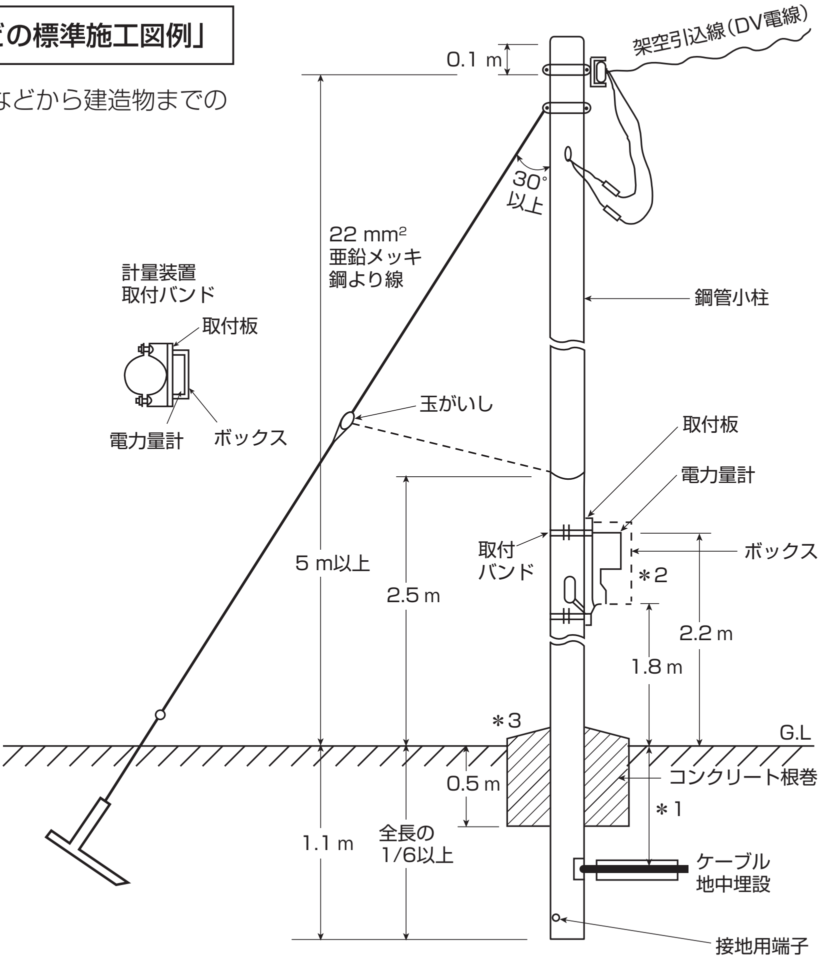
施工の基本事項

- ●ポールは内線規程に基づいて施工してください。
- ●ポールは電線管ではありませんので、ポール内の配線は必ずケーブルをご使用ください。
- ●ポールは内線規程2205節による引込小柱ですので他の用途（例えば道路灯･門柱･電柱など）には使用しないでください。
- ●引込線が道路を横断する場合は架空引込線の高さが地上5 m以上、道路を横断しない場合は4 m以上になるようにしてください。工事上やむを得ない場合において交通に支障がない場合で、道路横断する場合は地上3 m以上、道路を横断しない場合は2.5 m以上になるようにしてください。
  ※電力会社にご確認ください。
- ●ポールへの引込線は内線規程に基づき、道路･建物など他物から確実に離隔してください。
- ●配電柱との径間は「スッキリポールへの引込線の選定と実用径間」表（3ページ）の実用径間内としてください。
- ●実用径間内で引き込みしてもポールにたわみが発生します。「スッキリポールへの引込線の選定と実用径間」表（3ページ）のたわみ量の目安を参考に、曲がり･傾きを調整してください。
- ●スッキリボックス内に雨が入らないように、スッキリボックスとポールの間の引込口パッキンは確実に納まるように施工してください。
- ●建柱時、ポール内部に根巻き用コンクリートが入らないように保護用埋込配管引き出し穴を全箇所、テープなどでしっかり養生してください。
- ●仮建柱時、土を埋め戻す際は、雨水が長期にわたり残存しないようにポール下面の水はけを良くしてください。
- ●傷は腐食の原因になりますので、補修塗料などで防錆処理をしてください。
- ●ポールの実用径間（配電柱～引込小柱の距離）は、DV架空引込電線の弛度（たるみ）3 %を基準として計算した値です。弛度が小さくなると、張力が増加し、径間距離も極端に短くなりますので弛度3 %以上で施工してください。
- ●実用径間内でも、引込支持線（ケーブルちょう架用線など）を強く引っ張るとポールが曲がるおそれがあります。ポール選定時に許容荷重値をご参照ください。
- ●架空引込線の引留フックを支線引留金具と共用しないでください。
- ●施工の際はGL表示より上の包装紙をつけたまま工事をしてください。
- ●テレビおよび電話などの弱電線は強電線と直接触れないように施工してください。
- ●ポールおよびスッキリボックスは、落下など強い衝撃を加えると表面に傷が入り錆の原因となりますので、丁寧に扱ってください。
- ●支線を敷設する場合JIS G3537に適合する亜鉛メッキ鋼より線22 mm²をご使用ください。（推奨）

■内線規程の引込小柱などの標準施工図例です。ご参考ください。

内線規程 2205節　資料2-2-3「引込小柱などの標準施工図例」

鋼管柱で管内にケーブルを引入れて施設し、引込小柱などから建造物までの部分を地中に埋設して施設する場合。



〔備考 1〕＊1 のケーブルの埋設深さなど施設方法については、内線規程 2400 節 2400-1（地中電線路の施設方式）を参照のこと。

〔備考 2〕＊2 は、ボックスを取り付ける場合の図例を示す。

〔備考 3〕＊3 のコンクリート根巻は水がたまらないように地際の部分を多少盛り上げることが望ましい。

ポールへの引込線の選定と実用径間

品　　番	ポール全長 (m)	電灯線(DV3芯) 3.2mm	 8mm²	実用径間 (m)	許容荷重 (N)
XDDK1250KP XDDK1250KW･KA	5.0	●		37	1049
			●	36	
XDDK1263KP XK11JK1P XK11SK1P XSS-1K1 XSJ-1K1 XCS-2K1 XCJ-2K1	6.3	●		30	833
			●	28	
XDDK1355KP	5.5	●		61	1656
			●	58	
XDDK1360KP XDDK1360KW･KA	6.0	●		55	1509
			●	53	
XDDK1370KP	7.0	●		47	1284
			●	44	
XDDK2663KP XK21JK1P XCJ-3K1	6.3	●		51	1411
			●	48	
XDDK2770KP	7.0	●		47	1284
			●	44	
XDDK2780KP	8.0	●		40	1117
			●	38	
XDDK2790KP	9.0	●		49	1352
			●	47	
XDDK2445KP XK13SK1P XCS-1K1 XCJ-1K1	4.5	●		45	1254
			●	43	
XDDK2455KP	5.5	●		35	970
			●	33	

(注)実用径間はポールの許容荷重より算出したものです。施工時は内線規程に基づいて施工してください。

・許容荷重

許容荷重はポールの先端に加わる張力の最大値です。許容荷重は材料の許容応力と先端のたわみ量から算出しています。

・実用径間

実用径間は配電柱からスッキリポールまでの距離（最長径間距離）を表わしています。表中のケーブルに丙種風圧荷重が加わった時、ポールに加わる張力が許容荷重以下になるように実用径間を設定しています。このときの電線の弛度（電線のたるみ）は実用径間の3 %です。

・コンクリート根巻基礎

カタログ記載のコンクリート根巻基礎サイズは、電気設備技術基準の解釈第59条により普通土質〔B〕固まっている土または砂、多数の砂利、石塊まじりの土などで軟らかい土の部類に属するものの土質係数を使って算出しています。

各風圧荷重について（電気設備の技術基準の解釈第58 条　解説より）

甲種風圧荷重　高温季（夏から秋にかけての季節）において風速40 m ／ s の風があるものと仮定した場合に生ずる荷重

乙種風圧荷重　氷雪の多い地方における低温季（冬から春にかけて一般的に強風はない季節）において架渉線に氷雪が附着した状態で甲種風圧荷重の1 ／ 2 の風圧を受けるものと仮定した場合に生ずる荷重

丙種風圧荷重　氷雪の多くない地方における低温や人家が多く連なっている場所（一般的に風速は減少する）などにおいて、甲種の場合の1 ／ 2 の風圧を受けるものと仮定した場合に生ずる荷重

（中略）

氷雪の多い地方というのは、その地方の地方気象台の記録により判断すべきであるが、大体の目安としては、従来から北海道、秋田県、山形県、岩手県、宮城県、福島県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、岐阜県北部、滋賀県北部兵庫県北部、鳥取県、島根県およびその他土地が高く寒気が厳しい地方並びに栃木県、群馬県、茨城県、東京都、神奈川県等電線に氷雪のつきやすい地方を対象に考えている。

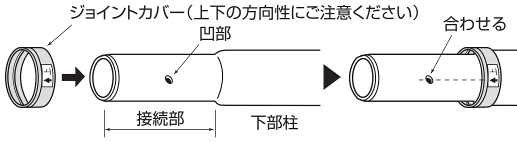
施工手順

1 部材の準備

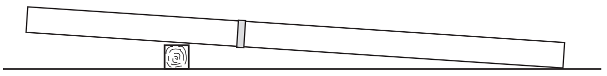
構成部材一覧をご覧の上、員数を確認してください。
取扱説明書の裏面にある点検シートに基づき点検を行い、点検欄にチェックをいれてください。
異常のある場合は点検シートに従って確実に処置してください。

2 ポールの接続（接続なしのポールはとばしてください。）

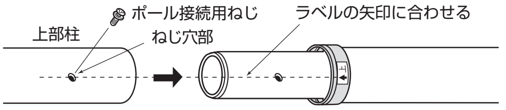
1)ジョイントカバーを下部柱の接続部に差し込み、ラベルの
　矢印位置を接続部凹部に合わせてください。



ポールは、枕木を敷いて寝かせて置いてください。



2) 上部柱のねじ穴部を下部柱の凹部とラベルの矢印に合わせて
　差し込んでください。
　差し込み後はポール接続用ねじでしっかり固定してください。



XDDK2445KPとXDDK2455KPは
ジョイントカバーとポール接続用ねじがありませんので、
差し込みのみ行ってください。

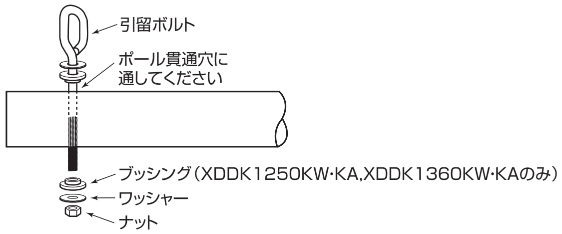
ご注意

・ねじが浮いている時は、凹部と合っていません。
　位置合わせをやり直してください。
・ポール接続用ねじの固定はしっかり行なってください。

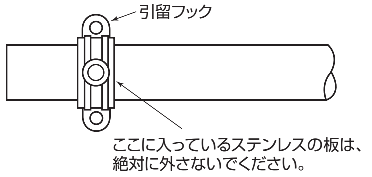
3 引留ボルト・引留フックのポールへの取り付け

各金具は電灯線の引込方向に合わせて、堅固に固定してください。

〔引留ボルトの場合〕

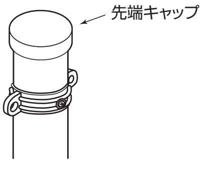


〔引留フックの場合〕



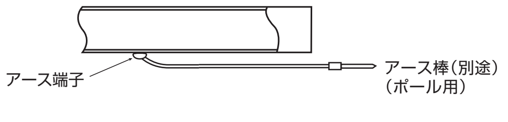
4 先端キャップのポールへの取り付け

先端キャップは抜けないよう
しっかり奥まで差し込んでください。



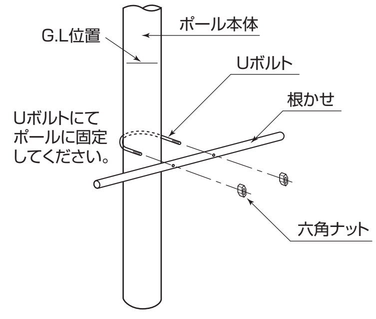
5 アース線のポールへの取り付け

アース棒からのアース線を、アース端子にねじ止めします。



6 根かせパイプのポールへの取り付け

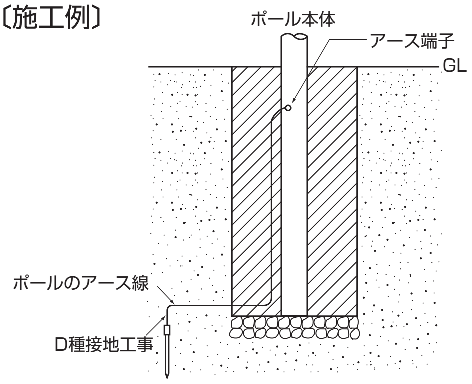
（根かせを使用する場合）



7 建柱

1) 動物などの排泄物が付着することが考えられる場合は、ポール寿命の低下をおさえるため地際部に補修塗料・防食テープなどで予防処置してください。
2) GLラベルの位置まで埋められるように基礎穴を掘ってください。
3) ポールを建てた後、土で埋め戻してください。雨水が長期にわたり残存しないようにポール下面の水はけを良くしてください。

〔施工例〕



警告

ポール下面の水はけを良くする
水はけを良くしないと、ポール内に雨水がたまり、腐食の原因となります。

8 架空線の引き込み

実用径間内で引き込みください。
実用径間は、「ポールへの引込線の選定と実用径間」表でご確認ください。

構成部材一覧

組合せ品番	ストレートタイプ	ジョイントタイプ		先端キャップ			アース端子ねじ	ジョイントカバー		ポール接続用ねじ	引留ボルト	ボックス臨時施設専用（メーターバンド2コ付）	引留フックφ89	アース線
	ポール本体	上部柱	下部柱	φ76	φ89	φ114		φ89	φ114					
XDDK1250KP	DDGS250P	―――	―――		●1		●1							
XDDK1263KP	DDGS263P	―――	―――		●1		●1							
XDDK1360KP	DDGS460P	―――	―――			●1	●2							
XDDK1355KP	DDGS455P	―――	―――			●1	●2							
XDDK1370KP	DDGS470P	―――	―――			●1	●2							
XDDK2663KP	―――	DDGR230P	DDGH352P		●1		●1	●1		●1				
XDDK2770KP	―――	DDGR430P	DDGH465P			●1	●2		●1	●1				
XDDK2780KP	―――	DDGR440P	DDGH475P			●1	●2		●1	●1				
XDDK2790KP	―――	DDGR450P	DDGH485P			●1	●2		●1	●1				
XDDK2445KP	―――	DDGR117P	DDGH111P	●1	●1		●1				●1	●1		
XDDK2455KP	―――	DDGR127P	DDGH111P	●1	●1		●1				●1	●1		
XK11JK1P	―――	DD101KPT			●1		●1	●1		●1			●1	●1
XK11SK1P	DD102KPT	―――	―――		●1		●1						●1	●1
XK13SK1P	DD103KPT	―――	―――		●1		●1						●1	●1
XK21JK1P	―――	DD161KPT			●1		●1	●1		●1	●1			●1
XCS-1K1	DD103KPN	―――	―――		●1		●1						●1	
XCS-2K1	DD102KPN	―――	―――		●1		●1						●1	
XCJ-1K1	―――	DD104KPN			●1		●1	●1		●1			●1	
XCJ-2K1	―――	DD101KPN			●1		●1	●1		●1			●1	
XCJ-3K1	―――	DD105KPN			●1		●1	●1		●1			●1	
XSS-1K1	DD102KPS	―――	―――		●1		●1						●1	
XSJ-1K1	―――	DD101KPS			●1		●1	●1		●1			●1	
XDDK1250KW･KA	DDGS250W･A	―――	―――		●1		●1							
XDDK1360KW･KA	DDGS460W･A	―――	―――			●1	●2							

パナソニック株式会社
パナソニック エコソリューションズSPT株式会社
〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地
© Panasonic Corporation 2012
DDGS263P-S14
DC0809-40414